

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区玄鼻1-8-1

ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

新年度にあたり、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は平成30年度の卒業生で41期を数えることになりました。平成最後の卒業生です。このたよりが皆様のお手元に届く頃には、新しい元号が発表されていることと思います。

今年度は、個人的に同窓生のつながりを実感する出来事がありました。学術集会の教育講演の講師候補の先生のご所属が1期生の先輩が勤務している病院だったので、紹介していただけないか連絡したところ、直ぐにいろいろと調整をしてくださり、スムーズに講師をお引き受けいただくことができました。その1期生の先輩とは、学部時代は全く面識がなかったので、卒業後の同窓会の集まりがなければお知り合いになることはなかったと思います。「糸」という中島みゆきさんの歌の歌詞にあるように、同窓会活動も同期という横糸と卒業期を越えた縦糸の両方があって初めて成り立つものではないでしょうか。

そして、その縦糸の役割をしてくれるのが、毎年1回開催される同窓会企画です。平成30年度の同窓会企画「様々な場で看護を活かす一病院や保健所以外の多様な場で活躍する看護職」では、約50名の参加がありました。参加者の期も様々で、小さなお子さん連れの若い期の同窓生や、準会員の学部生も参加してくれました。企画を担当している広報委員会もいろいろな期のメンバーか

ら構成されています。今年度も「様々な場で看護を活かす」というテーマで、今度は海外での経験がある同窓生がシンポジストになっています。久しぶりに母校を訪れ、同窓会活動の縦糸をいっしょに紡いでいただけたらとてもうれしいです。

昨年から学術集会参加費の助成に卒業後1年以内の卒業研究の発表についても対象としたところ、6名の同窓生から申請がありました。千葉大学看護学部のミッションの一つである研究者の養成を同窓会として微力ではありますが、後押しすることができたのかなと思います。

一方で、教員の定数削減や退職者のポストの凍結など、教員がこれまでのように本務の傍らに同窓会活動を行なうことの負担が増大しています。大学院に入学した卒業生も積極的に同窓会活動に関わってくれていますが、学部・研究科との連携上、教員でないといけないことも多くあります。

以上より、現在のよい流れをとぎれさせることなく、また今後も同窓会活動を維持していくために、2019年度の活動方針として、以下の2つを提案いたします。

- ①学術集会参加費助成や同窓会企画の運営など現在実施している準会員・会員と同窓会のつながりを強化する活動を引き続き継続していく。
 - ②同窓会活動の運営について見直し、今後も負担なく同窓会活動を継続できるような体制について検討する。
- 活動方針の実現に向けて、会員の皆様よりご支援・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶

看護学部長・看護学研究科長 中村 伸枝

新年度を迎えお忙しいなかにも、新たな気持ちでご活躍されていることと思います。千葉大学看護学部の卒業生は、この3月で3,488名となり、大学院看護学研究科の修了生は、1,145名（博士後期課程202名、博士前期課程807名、修士課程136名）になりました。

2016年度から5年間の科学技術政策の基本指針の中で示された「Society5.0」という言葉をよく目にするようになりました。Society5.0は、IoTやロボット、AI、ビックデータなどの新たな技術を取り入れてイノベーションを創出し、個々のニーズと社会的課題を解決する社会とされています。一方で、これらの膨大なデータは、収集・分析の仕方によっては、詳細な個人情報を生み出すリスクや、個人の関心や嗜好を先取りした情報提供に導かれることで熟考の機会を失うリスクも生じさせます。人々の健康・生活を支える看護において、Society5.0をどのように取り込んでいくか検討する際に、健康・生活や豊かな人生とは何か、立ち止まり考えてみる必要があるかもしれません。

看護学研究科は、引き続き「卓越した成果を創出している海外

大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学」として機能強化を進めています。昨年度は、学部から大学院へと一貫した専門英語教育についての検討が進み、試行科目が開始されました。千葉大学ではCOIL (collaborative online international learning) プログラムが採択され、看護学部とアラバマ大学間でも交流学习が開始されています。大学院博士前期課程においては、本年度より、全員が研究方法等の共通科目を履修する新カリキュラムが開始されています。専門看護師教育課程はがん看護と小児看護領域が38単位に移行しました。また、看護実践研究指導センターが進める「看護学教育の継続的質改善 (CQI) モデルの開発と活用推進」プロジェクトは最終年度を向かえ、看護学教育研究共同利用拠点としての再々認定に向けた検討が進められています。看護学研究科の二次再編の検討も進行しており、看護学教育・研究が目指す本質的な部分は変わらなくても、社会で必要とされる状況に応じた変化が求められているのだと考えます。

看護学部・看護学研究科の同窓生の皆さまも、多様な活動をされていることと思います。看護学部・看護学研究科についてご意見や感じていることがありましたら、いつでもお聞かせください。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

平成30年度 総会報告

平成30年6月30日(土) 14時20分から、看護学部第一講義室にて同窓会総会を開催しました。総会では、会長挨拶の後、総務委員会から、初めての国際会員が入会したことや、学術集会等参加費助成については、準会員が国際学会に参加することを想定して助成金額の上限は5,000円から10,000円に増額したこと、卒業研究を発表する場合には卒業後1年以内であれば助成の対象としたことなどが報告されました。会計担当からは平成29年度の入会状況が報告されました。名簿委員会からは、名簿発刊年ではなく例年通り活動したこと、たより委員会からは、会員からたより郵送の宛名に卒業期が印字されており個人情報保護の観点からふさわしくないという意見があったため、30年5月のたより発送の際には宛名に卒業期を印字しない方法に変更してもらうよう名簿管理業者に依頼していたが、誤って卒業期が印字された形で発送されたことが報告されました。意見をいただいた会員の方が特定できなかったためその方への謝罪はできなかったが、今後特定ができた場合には名簿管理業者のほうから直接謝罪をする方針であることが説明されました。広報渉外委員会からは、ホームページの更新や企画の報告、卒業生及び修了生への記念品贈呈が報告されました。また、平成29年度の会計監査について報告され、承認されました。

平成30年度の新役員が選出され、平成30年度の活動方針について、岡田会長より、①準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにすること、②評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声と同窓会活動に反映されるようにすることが提案され、承認されました。また、総務委員会からは、今年度も国際プログラムの修了生がいるため、国際会員の勧誘をすること、学術集会等参加費助成について、29年度は申込締切日を過ぎてから申請したものや、領収書を紛失してしまった者がいたため、30年度は募集ポスターに申請締切日や必要書類などを明記し掲示することなどが提案され、承認されました。名簿委員会からは、会員情報の訂正を、ホームページ上でできるように検討していく旨が説明され、会員情報訂正用のホームページ作成、「たより」にURLやQRコードを載せることについて審議され、承認されました。広報渉外委員会からは、入学記念品を国際プログラムの学生にも贈呈することなどが説明され、承認されました。平成30年度の活動予定に対して、平成30年度予算案が審議され、承認されました。

資料1

2018年度 決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入『決算-予算』、支出『予算-決算』、△表記⇒マイナス、無印⇒プラス

正会員の収支		予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部		計	計	計
1. 会費	計	7,794,493	7,809,003	14,510
1) 繰越金		7,779,493	7,791,003	11,510
2) 2018年度新入会員終身会費(12,000円×117名)		6,386,993	6,386,993	
内訳: 14N卒業生87名 修了生30名		1,392,000	1,404,000	
3) 利子		500	10	
2. 寄付	計	0	12,000	
準会員退会者入会金(12,000円×1名)				
3. 広報・渉外委員会	計	0	0	0
40周年記念誌代 ※残部少数のため販売は実施しない				
4. 名簿委員会	計	15,000	6,000	△9,000
名簿購入見込(3,000円×2件)				
支出の部		計	計	△14,510
1. 理事会	計	419,000	177,072	241,928
1) 会議費		5,000	2,971	2,029
2) 交際費		210,000	127,990	82,010
内訳: 校友会費		50,000	50,000	0
市慰金		50,000	0	50,000
多摩祭への寄付		50,000	50,000	0
学部オープンキャンパス運営補助		60,000	27,990	32,010
3) 準会員への支援		200,000	39,000	161,000
内訳: 学部学生への学術集会参加費助成(2017年度申請1件、2018年度申請5件)				
10,000円×1件			10,000	
6,000円×4件			24,000	
5,000円×1件			5,000	
4) 通信費		1,000	82	918
5) 雑費(振込手数料等)		3,000	7,029	△4,029
2. 総務委員会	計	50,000	35,618	14,382
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		21,000	16,060	4,940
2) 郵送費(事務連絡通信費)		5,000	5,858	△858
3) 人件費		15,000	10,000	5,000
内訳: 総会託児アルバイト謝金5,000円×2名			10,000	
4) 消耗品費(評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)		7,000	3,700	3,300
5) 雑費(振込手数料等)		2,000	0	2,000
3. 名簿委員会	計	386,300	302,701	83,599
1) 名簿制作費(今年度作成せず)		0	0	0
2) メンテナンス・データ処理		135,000	108,000	27,000
3) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)		200,000	138,831	61,169
4) 会誌情報訂正用ページのシステム作成初期費用		37,800	43,200	△5,400
5) 謝金(個人票確認作業補助)		10,500	10,000	500
6) 雑費(振込手数料等)		3,000	2,670	330
4. たより委員会	計	826,000	730,034	95,966
1) たより印刷発送費		825,000	729,170	95,830
2) 雑費(振込手数料等)		1,000	864	136
5. 広報・渉外委員会	計	369,500	294,141	75,359
1) ホームページ更新費		45,000	5,940	39,060
2) 会議費		21,000	15,609	5,391
3) 印刷費(同窓会企画周知用チラシ印刷3,600部・三つ折代・送料含)		55,000	50,720	4,280
4) 渉外費		230,000	219,496	10,504
内訳: 卒業式記念品		55,000	40,176	14,824
同窓会企画謝金5名		25,000	25,000	0
同窓会企画交通費		20,000	8,520	11,480
入学記念品作成代		130,000	145,800	△15,800
退官記念品		0	0	0
5) 消耗品費		3,000	0	3,000
6) 人件費		10,500	0	10,500
7) 通信費		1,000	0	1,000
8) 雑費(振込手数料等)		4,000	2,376	1,624
6. 予備費	計	5,743,693	6,269,437	△525,744
1) 同窓会企画 企画委員交通費2名			7,324	
2) 2019年度繰越金			6,262,113	

資料2

2019年度 予算(案)

収入の部		計	7,453,613
1. 会費	計	7,438,613	
1) 繰越金		6,262,113	
2) 新入会員会費(12,000円×98名)		1,176,000	
(内訳: 15N卒業生78名 修了生20名)			
3) 利子		500	
2. 名簿委員会	計	15,000	
1) 名簿購入見込(3,000円×5名)		15,000	
支出の部		計	7,453,613
1. 理事会	計	444,000	
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		30,000	
<内訳>			
理事会: 10,000円			
評議員会: 20,000円			
2) 交際費		210,000	
<内訳>			
校友会費: 50,000円			
市慰金: 50,000円			
多摩祭への寄付: 50,000円			
学部・大学院オープンキャンパス運営補助: 60,000円			
3) 準会員への支援		200,000	
<内訳>			
学部学生への学術集会参加費助成(上限10,000円/名×20名見込み)			
4) 郵送費		1,000	
5) 雑費(振込手数料等)		3,000	
2. 総務委員会	計	40,000	
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		10,000	
2) 郵送費(事務連絡通信費)		6,000	
3) 人件費(総会託児アルバイト謝金5,000円×3名分)		15,000	
4) 消耗品費(評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)		7,000	
5) 雑費(振込手数料等)		2,000	
3. 名簿委員会	計	368,000	
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		10,000	
2) 名簿制作費(制作冊数400冊、初期度下代含)		0	
※名簿作成年度のみ(2020年度)			
3) メンテナンス・データ処理		135,000	
4) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)		200,000	
5) 会誌情報訂正用ページのシステム管理費		10,800	
6) 人件費(個人票確認作業補助10時間分1時間1,000円)		10,000	
7) 雑費(振込手数料等)		3,000	
4. たより委員会	計	836,000	
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		10,000	
2) たより印刷発送費		825,000	
3) 雑費(振込手数料等)		1,000	
5. 広報・渉外委員会	計	238,000	
1) 会議費(委員等交通費、茶菓子代)		30,000	
2) ホームページ更新費(5,000円/更新1回×9回分)		45,000	
3) 印刷費(同窓会企画周知用チラシ3,000部・三つ折代含)		55,000	
4) 渉外費		90,000	
<内訳>			
卒業式記念品(バラ 学部生100名・院生40名)		55,000円	
同窓会企画 謝金(5,000円×シンポジスト3名)		15,000円	
同窓会企画 交通費(シンポジスト3名)		20,000円	
入学記念品作成代※本年度予定なし		0円	
退官記念品(10,000円/名)※本年度予定なし		0円	
5) 消耗品費(卒業式記念品に貼るテプラテープ代 他)		3,000	
6) 人件費(卒業式記念品準備作業10時間分1時間1,000円)		10,000	
7) 郵送費		1,000	
8) 雑費(振込手数料等)		4,000	
6. 予備費	計	5,526,813	

2018年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

2019年4月3日

監査

和佳淑子 (和佳)



Curio(キュリオ)

千葉大学校友会SNSの

入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>を開き、[\[入会案内はこちらから\]](#)をクリックし、『「Curio」入会申込書(正会員用)』より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類(運転免許証、健康保険証など)のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、「Curio」への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。



2019年度同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今まで以上に多くの皆様のご参加、ご意見をお待ちしております。

日時 **2019年6月29日(土)**
14時10分～

会場 **看護学部 第一講義室 (2階)**
千葉市中央区亥鼻1-8-1

*場所は、看護学部管理棟正面玄関等、各入口に掲示します。

内容 平成30年度事業報告、決算報告、2019年度役員選出、活動方針、予算案、その他

***総会出欠に関しまして、同封のはがきにご記入の上、ご返送ください。**

＜総会・企画開催中の託児について＞

総会・企画開催時間中(13:00～15:30)、アルバイト学生(看護学部生)による託児を行う予定です。ご希望の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、6月18日までに返送ください。当日のお申込みはできません。料金は無料ですが、申し込み後にご都合が悪くなられた場合は、6月28日(金)までに下記の係までご連絡ください。なお、同日のおやつやお気に入りの玩具等があればお持ちください。

係：小川(24期) 連絡先：toshiko.og@chiba-u.jp



2019年度総会議案

2019年度の活動方針は、①現在実施している準会員・会員と同窓会のつながりを強化する活動を引き続き継続していく②同窓会活動の運営について見直し、今後も負担なく同窓会活動を継続できるような体制について検討する、の2つを提案します。

2018年度決算報告書は資料1に、2019年度予算案は資料2に示します。また、新役員案を資料3、新委員会案を資料4に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏を推薦します。また、副会長に引き続き石橋みゆき氏、丸山優氏を推薦します。

資料3 2019年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会 新役員案

()は卒業期

会 長 岡田 忍 (3)	13期 荒屋敷亮子 末永 由理	26期 鈴木 和也 内海加奈子	38期 富田 千尋 矢崎 萌子
副会長 石橋みゆき (14) 丸山 優 (21)	14期 石川かおり 石橋みゆき 斉藤しのぶ	島村 敦子	39期 森元 花織 大和田理恵
評議員	15期 大塚 千春 前原 邦江	27期 国原 健史 鉄矢 朋子	池田 結
1期 伊藤 隆子	16期 新井 典子 飯島 久美	28期 鈴木 悟子 宮川 祐子	40期 澤本 美芽 黛 英里香
2期 田中 裕二 中村 伸枝	17期 北島 美奈 松林 美子	29期 松岡 大樹 太田 愛	41期 川末菜央子 松村 彩
3期 岡田 忍	18期 神津 三佳 中嶋 秀明	太田 潤	修了生 仲井 あや
4期 島田 尚江	永田亜希子	30期 佐野 元洋 渡邊 賢治	監 事 和住 淑子 (10)
5期 酒井 郁子 本田 彰子	19期 藤本 紀子 齊藤 千晶	31期 屋久 祐介 吉田 真美	小川 純子 (15)
6期 児玉三枝子 遠藤 恵子	20期 長瀬明日香 渡邊 美和	32期 山崎由利亜 橋内 伸介	会 計 岩瀬 靖子 (21)
7期 亀崎 路子	21期 菅谷 綾子 時田 礼子	33期 伊藤真理子 松戸 麻華	山崎由利亜 (32)
8期 湯浅美千代 山倉 美典	22期 山下 亮子 高橋 良幸	阿部由喜湖	佐々木ひろ (34)
9期 荻野 雅	23期 榊原理恵子 長谷川智子	34期 上平 美和 能川 琴子	
10期 錢 淑君	24期 小川 俊子 中村 愛	後藤 靖江	
11期 野崎 章子 坂上 明子	村山 陽子	35期 荻野穂奈美 霜村 菜奈	
12期 末永 香 島田 広実	25期 伊藤 明子 守屋 奈生	田中 貴大	
河部 房子 石丸 美奈	松本美佐子	36期 川島 悠佳 藤島 佳奈	
		37期 工藤ひかり 田近 祐子	

資料4 2019年度 千葉大学看護学部・研究科同窓会 新委員会案

()は卒業期

総務委員会	委員長 中水流 彩 (33)	たより委員会	委員長 永田亜希子 (18)
	副委員長 小川 俊子 (24)		副委員長 金井 友佳 (29)
名簿委員会	委員 渡邊 美和 (20) 佐野 元洋 (30)	広報・渉外委員会	委員 椿 祥子 (23) 池田 結 (39)
	森田由香理 (31) 阿部由喜湖 (33)		太田 潤 (29)
	委員長 雨宮 歩 (26)		委員長 時田 礼子 (21)
	副委員長 仲井 あや (修)		副委員長 石丸 美奈 (12)
	委員 野崎 章子 (11) 加瀬竜太郎 (36)		委員 神津 三佳 (18) 田中 貴大 (35)
	斉藤しのぶ (14) 松村 彩 (41)		山下 亮子 (22) 佐藤 太一 (35)
			渡邊 賢治 (30) 香澤 夏菜 (40)
			能川 琴子 (34) 佐久間 葵 (40)
			大竹由希子 (34)

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して学術集会の参加費を助成しています。平成30年度は6名に対して助成しました。2019年度も助成を継続し、多くの学部生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

【学術集会参加報告】

氏 名：吉岡 夏美（卒業生）

参加学会：第59回 日本母性衛生学会 場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

参加目的：卒業研究の発表、母性看護の全国学会の聴講

今回の学会では、卒業研究「高等学校の性教育に対する養護教諭の困難感とその対処」のポスター発表を行いました。初めての全国学会、ポスター発表で緊張していましたが、学部時代の先生方にお力添えいただいたおかげで、たくさんの参加者に興味を持っていただき様々な視点から意見交換をすることができました。とくに印象深かったのは、助産学生が授業の一環でピアエデュケーターとして地域の小中学校に性に関する出張授業を行っているという取り組みについてです。私自身、学部時代からNPOで中高生に性教育の講演を行う中で、扱う内容や言葉の選び方から予算や専門家の監修などの運営面まで考えることがたくさんありました。それらのことについて新たな視点からの意見をいただき、とても勉強になりました。

また今年度より助産師として働き始め、母乳育児支援に困難を感じていました。そのため、母乳育児支援に関する発表を積極的に聴講したり、搾乳器・哺乳瓶・ミルクのメーカー展示を見たりしました。とくに新人助産師と熟練助産師の乳房ケア時の手指の動きと圧力の違いについて考察した発表はとてもわかりやすく、その後の現場でのケアにとても役立っています。

今後もこのような機会を利用して、自己の看護知識や技術を向上させていきたいと思います。

第16回亥鼻祭を終えて

2018年度亥鼻祭実行委員サークル 実行委員長 医学部3年 國富美由 福島 剛

2018年11月4日、第16回亥鼻祭が無事開催されましたことをここに報告いたします。当日は午後から雨に見舞われてしまったにもかかわらず、約2,100人の方に足を運んでいただくことができました。

亥鼻祭実行委員サークルが2017年に発足してから取り戻した亥鼻祭の勢いを、いかに衰えさせず、更にはより活気づけるか、そういったことを考えながら当日まで常に活動し続けました。実行委員長2人体制という少し異質な体制の中、1～3年生まで全ての学部の学生を巻き込み、少しでも多くの方に亥鼻祭に携わってほしいと考えていました。

委員長として活動していると、委員の学生だけでなく、多くの先生方やOBOGの方々、地域の方々、家族など、本当に多くの方に支えられながら亥鼻祭ができていくことを痛感いたしました。特に直前の1カ月間は、各企画の準備も活発化し亥鼻祭が多くの人の力によってでき上がっていく様子をずっと見ていました。まさに今年のテーマである「千人千色(せんにんちいろ)」、多くの人の個性が混ざり合い、亥鼻キャンパスでしかできない文化祭が作り上げられていく日々を委員長として過ごすことができたことはとても光栄に思います。

当日は学生が来場者の方を笑顔で案内していたり、企画を通じて交流したりしている姿が多く見受けられました。今まで以上に多くの学生が亥鼻祭に携わっているように感じ、亥鼻祭にしか生み出すことができないようなエネルギーをとて強く感じました。亥鼻祭が千葉大学亥鼻キャンパスの学生と外部の方を繋ぎ、亥鼻キャンパスの学生やキャンパスを知ってもらえる場としての力を発揮しているところを見ることができ、来年度以降も同じような景色がこの亥鼻キャンパスで繰り広げられればどれだけ素敵な空間なのだろうとひしひしと感じたことを今でも鮮明に覚えています。

亥鼻祭を通じ、多くの千葉大学のOBOGの方々にお会いしました。多方面において活躍なさっている方々と医学教育における考え方や医療に対する熱い思いについて沢山お話させていただきました。また、多くの先生方から亥鼻祭を運営する経験ほど貴重な経験はない、これ以上に良い経験はできないから全力で取り組みなさいというお声がけをいただき、その言葉があったからこそ、この半年間を過ごすことができたと思っております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今年度亥鼻祭を開催できましたのも、同窓会の方々をはじめ、地域の方々や保護者の方々、大学の先生方のご理解とご協力のおかげでございます。亥鼻祭の開催に関わってくださったすべての方々に深く御礼申し上げます。今後ともご支援ご厚情を賜りますようよろしくお願いいたします。



平成30年度 同窓会企画報告



開催概要

日 時：平成30年6月30日（土） 第一部：13：00～14：00、第二部：15：00～15：30

場 所：千葉大学看護学部 第一講義室

テーマ：様々な場で看護を活かす ― 病院や保健所以外の多様な場で活躍する看護職 ―

シンポジスト

●佐藤 明美（14期）小学館 女性メディア局 書籍コンテンツ企画室 編集長

●大関 夏子（34期）ケアプロ株式会社 予防医療事業部 看護師・保健師

●新井 春菜（35期）株式会社コロニアスポーツウェアジャパン

●印田 宏子（大学院修了生）花王プロフェッショナル・サービス株式会社
学術部 学術情報グループマネージャー
感染管理認定看護師

【座長】

大竹由希子（34期）

【司会】

川上 奈々（39期）

参加者からの声

- ・看護師として、医療の現場だけでなく、どんな働き方があるか考えているところだったので、刺激になりました。
- ・看護の職以外には何があるのか知りたいと思ったので今回貴重なお話をきかせて頂くことができました。今、学部で学んでいることは将来幅広く生かすことができるのだと感じました。普段は聞くことのできないような、先輩方のお話も聞けてよかったです。ありがとうございました。（学部生）
- ・自分自身の今後についてチャレンジする意識ができました。
- ・多くの方が参加されてうれしかったです。とても魅力的なお話でした。
- ・看護職の働く場が広がっていると感じました。千葉大の先輩方が勇気をもって活動しているのがすばらしいと思いました。

平成30年度は、47名と多くの方が参加してくださいました。学部生が6名、そして、一けた期から40期まで参加してくださいました。企画に参加して下さった皆様、当日運営にご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。今後も、学部生も参加しやすく、且つ様々な年代の方と交流できるような企画を考えていきたいと思ひます。広報渉外委員メンバーは、大学院生や学外メンバーも多いですが、若さとパワーでがんばっています。今後ともよろしくお願ひいたします。

平成30年度広報渉外委員一同

委員長：時田 礼子（21期） 副委員長：石丸 美奈（12期）

委 員：佐久間 葵（40期）、沓澤 夏菜（40期）、川上 奈々（39期）、佐藤 太一（35期）、
田中 貴大（35期）、大竹由希子（34期）、能川 琴子（34期）、渡邊 賢治（30期）、
山下 亮子（22期）、神津 三佳（18期）

看護学研究科 国際交流の今一部局間交流協定校の紹介と最近の交流の実際一

2017-2018年度国際活動委員長 和住 淑子 (10期)

看護学研究科の国際交流について、最近の動向をお知らせします。

現在、千葉大学大学院看護学研究科では、以下の7つの大学と部局間協定を締結し交流しています。

韓 国	ソウル国立大学看護学部 (ソウル市)
タ イ	コンケン大学看護学部 (コンケン)
中 国	大連医科大学看護学部 (大連市)
中 国	復旦大学看護学院 (上海市)
中 国	香港大学
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 (アラバマ州バーミングハム)
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 (カリフォルニア州サンディエゴ市)

この他、英国アルスター大学看護学部との部局間協定締結に向けた準備を進めています。

さらに、以下の11の大学とは、千葉大学との間で大学間協定が締結されており、看護学研究科も協定の締結に関与しております。

韓 国	ソウル国立大学 (ソウル市)
タ イ	コンケン大学 (コンケン)
タ イ	プリンスオブソンクラ大学 (ソンクラ)
台 湾	台北医学大学 (台北市)
中 国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)
中 国	大連医科大学 (遼寧省大連市)
中 国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)
アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (カリフォルニア州ロサンゼルス)
カ ナ ダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州シャーロットタウン)
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)

それぞれの大学とは、学生・教員同士の活発な交流が行われています。その一例として、今回は、タイのコンケン大学との交流の実績をご紹介します。

千葉大学大学院看護学研究科は、2015年2月にコンケン大学看護学部と部局間協定を締結しました。コンケン大学はタイ東北部最大規模の国立総合大学であり、1971年に開設された看護学部は、タイで最初の看護学部で (千葉大学看護学部と似ていますね)、アセアン地域において看護学教育の中心的な役割を担い、東南アジアからの留学生も受け入れています。

両校の学生交流については、両学部の教員間での打合せや現地視察などを通して、具体的検討が進められました。千葉大学側の学生受入れプログラムは、スーパーグローバル大学創成支援事業に基づき留学生の増加を図っている千葉大学全学の動向も踏まえ、看護学研究科の国際活動委員会が中心となって企画しました。千葉大学看護学部の特徴を国際発信できるよう、「千葉大学看護学部で看護を学ぶ一伝統と革新」 というテーマをつけ、看護学の実践・教育・研究におけるリーダー養成を目的として設立され、日本における看護学発展を牽引してきた歴史ある看護系大学のひとつである千葉大学看護学部において、看護を学ぶことの意義が伝わるようなプログラム構成にしました。

2017年7月に、コンケン大学看護学部生2名が短期留学に来ました。短い期間でしたが、大学病院をはじめ様々な施設の見学を行い、2年生の看護技術演習へ参加して学生同士で交流も深めることができました。学生たちは、日本の看護を知るとともに、自身がコンケン大学で学習している看護技術と比較したり、得た知識をタイの農村部に住む人々へのケアなど、自国での看護にどのように応用できるかを考察したりしていました。最終日は地域の民族舞踊を披露してくれました。



現在、このプログラムは、有償のショートプログラムとして千葉大学全体のプログラムのひとつに位置付け、協定校のみならず、広く海外の大学の看護学生の受入れプログラムに発展させています。

また、2018年6月には、コンケン大学よりSauwamas Khunlan Theunnadee学部長をはじめとする総勢17名の教員が、さらなる教育・研究の協働の可能性について検討することを目的として本看護学研究科に来訪されました。本研究科からは、中村伸枝研究科長、手島恵副研究科長、眞嶋朋子学部教務委員長、をはじめとする複数の教員が対応し、懇談を行いました。また本学医学部附属病院についても見学いただきました。



このように国際交流活動が活発になってきましたので、日本における千葉大学大学院看護学研究科の立ち位置や特徴を国際発信できるよう、看護学研究科のロゴをモチーフにした英文パンフレットの作成、研究科紹介用英文パワーポイントの整備、看護学研究科ロゴ入り記念品の準備なども行いました。

千葉大学大学院看護学研究科の国際交流活動については、看護学研究科・看護学部ホームページのフォトニュースで随時ご紹介しております。<https://www.n.chiba-u.jp/others/photonews/index.html>

どうぞ、皆様もチェックしてみてください。

看護学部・看護学研究科を連動させた英語教育と国際交流の方向性

学術推進企画委員会 委員長 酒井 郁子（5期）

1) 背景

千葉大学は平成26年度にスーパーグローバル大学創生支援タイプBに採択されました。これにより、高等教育研究戦略室のなかに英語カリキュラム策定委員会を設置し、各部局の専門教育科目において、英語力を向上させるカリキュラムの策定が推進されています。この動きを受けて、看護学部では、国際公募を行い、テニユアトラック教員として言語学（英語）の教員を雇用し、専門教育における英語力の向上を目指した、英語カリキュラムの策定を行い、2018年度からトライアルを開始しています。私は現在この英語カリキュラム策定のワーキング長として、活動しています。

以上のような社会のグローバル化に対応した全学の動きだけでなく、看護学部の学生の英語能力の推移の分析を行った結果、1年次学生と比較して4年次学生の英語能力の低下などが明らかになったことも、英語教育の強化を推進する大きな理由でした。センター試験、個別入試を受けて入学してくる学生はもともと英語能力が高いのですが、4年間の看護学部のカリキュラムのなかで英語を使う機会が少ないことが、大きく影響していると考えられました。

2) 千葉大学看護学部・看護学研究科における英語教育の理念

カリキュラムを策定するにあたり、看護学部における英語教育の理念を、①言語学と看護学を統合して教授する、②学生のニーズに応じて看護学教員と言語学教員が協力してカリキュラム策定を行い、共同運営する、③教員と学生の英語能力の両方の向上を目指す、④大学院と学部の連動により、一貫した専門研究英語の能力の発達を目指す、と設定しました。

千葉大学大学院看護学研究科および看護学部はカリキュラム改正を行い、学部と大学院教育の連動を強化し、研究者養成、および高度実践者養成、グローバルに活躍する人材の育成などミッションにより適合するカリキュラムにしました。そのため、英語だけを独立して教授する方法では、保健医療の分野でグローバルに活躍する人材の育成は達成が難しいと考えられたため、上記の理念を策定したのです。

3) 看護学研究科・看護学部における英語カリキュラム策定に向けた課題

現状の分析から、明らかとなった課題は、①4年間継続的に英語を学ぶ機会を提供すること、②大学院カリキュラムに連動したアカデミック英語を学ぶ機会を提供すること、③もともと英語力の高い学生の能力のさらなる向上とともに、それほど英語力の高くない学生の能力向上の両方を志向すること、です。

これまで、学部1年生の時には、TOEFL受験、普遍教育での英語科目4単位必修と高校からの英語力が維持できるようにになっているにもかかわらず、2年生から4年生にかけてほとんどの科目で日本語による授業となることが大きな問題でした。また大学院博士前期課程、後期課程のコースワークでも英語による授業、もしくはアカデミック英語の授業が設定されていないため、英語論文の作成、海外での学会発表などに大きな困難を抱えている状況も浮かび上がってきました。

4) 今後展開予定の看護学研究科・看護学部の専門英語カリキュラム

2018年度は上記の課題解決のため、学部および大学院のカリキュラム改正と合わせて専門英語カリキュラムを開発し、正規カリキュラムに埋め込みました。

(1) 看護学部の専門英語カリキュラム

今後の看護学部の専門英語カリキュラムは右の図の通りとなります。2年生のカリキュラムにコミュニケーション英語、英語による講義科目グローバルヘルスナーシングⅠを組み込みました。3年生にアカデミック英語を組み込みました。また2年生以上の学年の夏休みと春休みの期間の短期留学を科目として組み込みました。また4年生では卒業論文を英語で書き、プレゼンテーションする試みも導入しています。

2019年2月、3月にはグローバルヘルスナーシングⅡとして、アラバマ大学、コンケン大学、レスター大学、マヒドン大学などに2週間程度の短期留学を実施し、18名が参加し無事に帰国しています。留学に行った学生さんたちは充実した時間を過ごすことができました。これにともない、海外からの短期留学の受け入れも多くなっています。2018年12月には、香港大学看護学部から4人が玄晁IPEステップ3のプログラムすべてに参加し、英語によるグループワークや発表を行っていました。そのほかにも複数大学からの視察や留学を受け入れています。

2018年度は卒業研究を英語で書き、英語でプレゼンテーションする試みをスタートさせました。今年度は2名が取り組み完成させています。次年度は4名がこの英語による卒業研究に取り組む予定です。

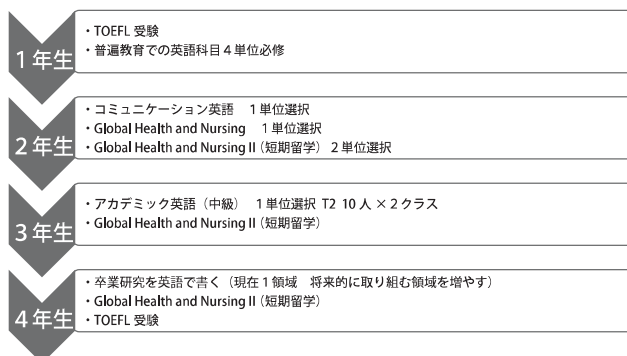
そのほかにも、千葉大学の短期留学、長期留学制度支援制度を活用して、学部生がどんどん世界各地で学びを深めています。

(2) 大学院博士前期課程・後期課程における専門英語カリキュラム

大学院博士前期課程・後期課程のカリキュラム改正が2019年度から順次スタートします。カリキュラム改正のねらいは、共通基盤科目群を策定し、コースワークを充実させること、博士前期課程・後期課程の連動性をたかめ、研究者、教育者としてのコンピテンシーを保証し、リーダーシップを発揮できる人材を育成しようとするものです。

この改定において、アカデミックコミュニケーションという共通科目群を整備しました。博士前期課程では、アカデミッ

看護学部英語教育全体像



クコミュニケーション1、2、3の3つの科目を開設します。博士後期課程では、アカデミックライティング、システマティックレビュー、グローバル演習を開設します。

千葉大学大学院看護学研究科 アカデミックコミュニケーション科目

5) 教員の海外発信力強化

今まで述べてきた、学部、大学院を連動させた専門英語教育は、言語学の教員だけではできません。看護学部ですから、専門英語は看護学という学問の発展と社会への貢献に必要なツールであり、発信すべき看護学の知見が豊かに存在することが前提です。言語学の教員と専門領域の教員が協働して学生の教育に当たる必要があります。そのためには看護学研究科の教員の海外発信力、英語による授業実践の能力の向上が求められます。

そのために、昨年度から教員を対象としたアカデミックライティングのファカルティデベロップメント、英語論文の作成のためのコンサルテーションの仕組みを作りました。その結果、海外からの招聘講演、シンポジウム招聘、海外研究雑誌への論文の掲載が徐々に増えつつあります。

千葉大看護学部、看護学研究科が培ってきた看護の知を世界に発信することにより、世界がより近くなり、世界中で看護学部の卒業生、修了生が活躍できることでしょう。

博士後期課程		
Academic Writing 1単位選択	Systematic Review 1単位必修	グローバル演習 2単位選択
博士前期課程		
Academic Communication1 (Reading Listening) 1単位選択	Academic Communication2 (Speaking Writing) 1単位選択	Academic Communication3 (日本語での論述) 1単位選択

登録データの更新・変更について

今年度より、WEBページで登録データの更新・変更が可能になりました。WEBページか個人票のどちらかで、毎年、登録データの更新・変更をお願い致します。

WEBページでの更新・変更方法

<https://dosokai.ne.jp/chiba-univ.nursing/> にアクセスします。

右のQRコードからでもアクセス可能です。

ID: chiba-univ.nursing
パスワード: dosokai

必須項目と変更が必要な項目があれば「登録情報変更あり」をクリックして内容を入力し、送信してください。

ご自分のメールアドレスにも確認メールが届きます。



個人票での更新・変更方法

変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。同封の個人情報保護シールを上貼して、ご返送ください。

更新・変更方法に関する注意点

- ☆勤務形態、設置主体、職種、職位はコード表から番号を選択してください。
- ☆現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、(在学中)とご記載ください。勤務を続けたまま学生をされている方(科目等履修も含む)は、勤務状況と学校名の両方のご記載をお願い致します。
- ☆近況報告について、ご記載いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、チェック欄にチェックしてください。
- ☆名簿に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する記載欄に(不掲載)とご記載ください。

個人票返送の締め切り

2019年6月末日までに返送してください。

WEBページでは一年中、登録データの更新・変更が可能です。

登録データの更新・変更はすべての会員の方がWEBページまたは個人票の返送により実施してください。

個人票は、同窓会からのあらゆる連絡(たよりの発行、名簿の発送など)のための住所のもととなります。さらに、皆様から返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生・看護学研究科修了生の現在の就業状況を統計的に把握しています。これは、卒業生・修了生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料となっております。住所変更をしていなくても、データ管理は毎年継続しておりますので、必ず登録データの更新・変更をしてくださるようお願い申し上げます。

今年3月に卒業された方々も、住所に変更がなくても必ずご返送ください。

! ご注意ください!

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断(シュレッダー)するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。また、登録データ更新・変更用のWebページは個人情報保護のため送信専用としておりますが、ID、パスワードは会員外の方と共有することのないよう、ご協力をお願い致します。

平成31年度 千葉大学大学院看護学研究科 教員紹介

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	技術／特任
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
			小児看護学	中村 伸枝			仲井 あや 中水流 彩 下屋 聡平	
			成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		楠 潤子	
		高齢社会実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		山崎由利亜 佐々木ちひろ	(特任准教授) 大原 裕子 (特任研究員) 林 弥江
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩	(特任研究員) 松島絵里奈
			リプロダクティブヘルス看護学	森 恵美	岩田 裕子		木村佳代子 遠山 房絵	(特任准教授) 前原 邦江
			健康管理看護学	北池 正	池崎 澄江			
		地域創成看護学	精神看護学			野崎 章子	館 祥平	
			地域看護学	石丸 美奈			鈴木 悟子 坂井 文乃	
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子		湯本 晶代	(技術補佐員) 田代 実香
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本 利江	斉藤しのぶ		飛世真理子	
		専門職育成学	看護教育学	中山登志子				(技術職員) 鹿島嘉佐音
		看護政策・管理学	看護管理学	(吉本 照子)				
				(酒井 郁子)				
	看護学	共同災害看護学	災害看護学	災害看護学	宮崎美砂子	佐藤 奈保		(特任研究員) 霜越多麻美
					看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学	手島 恵
地域看護システム管理学	吉本 照子		飯野 理恵					
ケア施設看護システム管理学	酒井 郁子			カズノバダビッド				
附属看護実践研究指導センター		ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子			(特任研究員) 炭谷 大輔	
		政策・教育開発研究部	和住 淑子	銭 淑君	今村恵美子			
附属専門職連携教育研究センター				(特任) 井出 成美	(特任) 高橋 在也 臼井いづみ	■馬場由美子		
外部資金等講座				特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員／事務補
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン								(特任研究員) 國武由香里
看護学教育CQIモデル開発と活用推進								

* 下線…正会員 ■特命助手 () の名前…兼任者

平成31年度 千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

●博士前期・後期課程(看護学専攻) ●5年一貫性博士課程(共同災害看護学専攻) ●修士課程(看護システム管理学専攻)対象

日 時：令和元年5月18日(土)
集合時間12:50 開催時間13:00

会 場：看護学部 講義・実習室(2階)

内 容：(1) 看護学研究科の概要と特色
(2) 各専門領域等教授紹介
(3) 入学試験の説明
(4) 大学院生からのメッセージ
(5) 専門領域別質問コーナー、大学院生との交流

問い合わせ・申込先

お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野(専門領域)を記載の上、「大学院説明会参加希望」と明記して、ハガキ、FAX、Eメールで千葉大学看護学部大学院学務宛で、お送りください。締め切りは、令和元年5月10日(金)17:00です。締め切りを過ぎた場合も、お問い合わせください。

問い合わせ先

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 看護学部大学院学務係
TEL 043-226-2450 FAX 043-226-2382
Eメール：tae5667@office.chiba-u.jp
千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/